

# 飛ぶような感覚楽しい

3月に兵庫県であったドローンレース大会（カイトコーポレーション主催）に、長崎総合科学大の研究サークル・高機ドローンのメンバーが出場。工学部4年の谷川一成さん(25)がFPV（一人称視点）部門エキスパートクラス（初級）で2位になるなど好成績を収めた。メンバーは全国制覇を目標に、レース用機の制作や縦の練習に励んでいる。

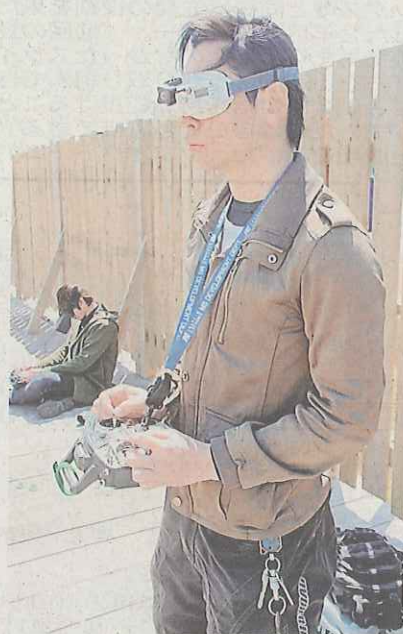
## 長崎総科大ドローンサークル



ドローンレースは2015年ごろに国内で初開催され、現在は全国各地で毎月1、2回ほど開かれている。FPV部門は、操作するレーサーがドローンのカメラから送信される映像をゴーグルで見ながら、空を飛んでいるような感覚でコントロール。規定のコースを飛行するスピードを競う。

高機ドローンは16年に工学部の学生を中心に結成し、現在3年生と大学院生の12人で活動。レースに使うドローンを、メンバーがネット通販などで部品を購入、自作した。FPV部門ではアマチュア無線の免許が必要で、免許取得のための勉強もしている。

時速200キロを超えることもあるというレース用機に搭載する制御センサーは、軽量化のため最低限にする。このため空中での平衡姿勢は操縦技術でコントロール。通常より格段に難しい。高速飛行するドローン目線の映像を見ながら操縦するため、画面酔いする人もいるという。



ドローンを操縦する谷川さん

## レースで好成績 全国優勝 目指し日々練習

サーを一つ減らし、軽量化して速度を出せるようになったが、操縦は難しくなり練習でカバーした。

3月の大会では、メンバー4人がエキスパートクラスに出場。参加者約20人で予選を実施し、タイムの速い順に9人が通過した。谷川さんと同学部3年の永田貴之さん(20)が準決勝に進み、谷川さんは決勝にも進出し2位に、永田さんはベ



高速で飛行するドローン

スト8で入賞した。

今後はレースでの優勝を目指す。5月には福岡県で開催される大会に出場予定。また、県内の工業系高校でドローンの構造や作り方を紹介する体験学習も開いている。永田さんは「自分でドローンを作るところから初めて、最終的に動いて飛んだ時がうれしい」、谷川さんは「ドローンに乗っているような感覚が楽しい」と話す。